

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

中国・四国支部 平成 29 年度 総会

日時：平成 29 年 3 月 24 日（金） 15：20 - 16：20

場所：県立広島大学サテライトキャンパスひろしま 504 中講義室

（〒730-0051 広島市中区大手町 1 丁目 5-3 広島県民文化センター5 階）

式次第：

開会

挨拶 支部長

議事

1. 平成28年度支部活動・会計報告

1.1 平成28年度活動報告 ……………資料 1-1

1.2 平成28年度会計報告 ……………資料 1-2

1.3 会計監査報告

2. 平成29年度支部事業計画について

2.1 平成29年度活動計画（案）……………資料 2-1

- 「プロジェクトマネジメントと品質経営」研究部会趣意書（資料 2-1-1）

- 「SCM&サービス工学」研究部会趣意書（資料 2-1-2）

- 「OR と数学」研究部会趣意書（資料 2-1-3）

2.2 平成29年度予算（案）……………資料 2-2

2.3 平成29年度支部役員（案）……………資料 2-3

3. 平成 29 年度中国・四国地区 SSOR について……………資料 3-1

4. 平成 29 年度支部主催シンポジウムについて……………資料 4-1

5. その他

閉会

中国・四国支部 平成 28 年度活動報告

総会（1回）

第1回 日時：平成 28 年 3 月 26 日（土）15:20 ～ 16:20

会場：県立広島大学サテライトキャンパスひろしま 505 中講義室

（〒730-0051 広島市中区大手町 1 丁目 5-3 広島県民文化センター5 階）

議題：（1）平成 27 年度支部活動および決算の報告

（2）平成 28 年度支部役員の選出

（3）平成 28 年度活動予定および予算案について

（4）その他

運営委員会（2回）

第1回 日時：平成 28 年 3 月 26 日（土）14:10 ～ 15:10

会場：県立広島大学サテライトキャンパスひろしま 505 中講義室

（〒730-0051 広島市中区大手町 1 丁目 5-3 広島県民文化センター5 階）

議題：（1）平成 27 年度支部活動および決算の報告

（2）平成 28 年度支部役員の選出

（3）平成 28 年度活動予定および予算案について

（4）その他

第2回 日時：平成 28 年 12 月 22 日（木）15:30 ～ 16:30

会場：県立広島大学サテライトキャンパスひろしま 504 中講義室

（〒730-0051 広島市中区大手町 1 丁目 5-3 広島県民文化センター5 階）

議題：（1）平成 29 年度支部事業計画について

（2）次年度支部総会についての活動・予算等の報告・計画

（3）平成 28 年度支部活動，実施，決算報告について

（4）平成 29 年度第 1 回運営委員会および総会の日程検討

（5）その他

支部懇親会（2回）

第1回 日時：平成 28 年 3 月 26 日（土）18:00 ～ 20:00

会場：SUSHI-beya EITO（〒730-0036 広島県広島市中区袋町 9-4 1F）

第 2 回 日時：平成 28 年 12 月 22 日（木）18:00 ～ 20:00

会場：瀬戸内料理 広起（〒730-0028 広島県広島市中区堀川町 3-3）

平成 28 年度支部定例シンポジウム

日時：平成 28 年 11 月 26 日（土）13:00 ～ 27 日（日）12:00

会場：高松テルサ（高松市屋島西町 2366-1）

実行委員長：中山慎一（徳島大学）

プログラム：

11 月 26 日（土）

12:55 opening

13:00-14:00 [招待講演] 「OR 若手研究者の歩み」 齋藤靖洋先生（海上保安大学校）

14:15-15:15 [招待講演] 「なぜ OR 研究者の道へ進んだのか、および、現在の研究内容」 宇野剛史先生（徳島大学）

15:30-16:30 [ショートトークセッション（1）]

Java による MRSPN 解析ツールの開発とその応用 松井 寛太（広島大学）

バグ修正時間を考慮したソフトウェア最適リリース問題についての考察 住田 大亮（広島大学）

マッチング処理制約のあるフレキシブルフローショップの性能評価に関する考察 森原 和也（広島大学）

Marshall-Olkin タイプソフトウェア信頼性モデルの拡張について 川崎 美穂（広島大学）

19:00-自由討論

11 月 27 日（日）

9:30-10:30 [ショートトークセッション（2）]

3 地点間オンデマンドバスの待ち時間導出モデルについて 堤 多加将（鳥取大学大学院工学研究科）

待機場所を持つ 3 地点間オンデマンドバスモデルについて 武本 健助（鳥取大学大学院工学研究科）

シンプソンのパラドックスと統計学 安部志歩（徳島大学総合科学部）

誕生日問題の一般化 片桐麻衣（徳島大学総合科学部）

10:45-11:15 [ショートトークセッション（3）]

クレーンを用いたある種のブロック移動問題を解くプログラム開発 長尾知美（徳島大学総合科学部）

ネットを用いたクラス編成問題を解くプログラム開発 岡本美沙季（徳島大学総合科学部）

11:15-11:55 [ロングトークセッション]

地域住民の動線および需要の不確実性を考慮した商業施設の立地最適化 益田駿志 (徳島大学総合科学部)

バス運行会社におけるスタッフスケジューリング 田川 智大 (徳島大学総合科学部)

11:55 closing

支部講演会 (4回, 講師5名)

■ 第1回講演会

日時: 平成28年3月26日(土) 16:30 ~ 17:30

会場: 県立広島大学サテライトキャンパスひろしま 505 中講義室

(〒730-0051 広島市中区大手町1丁目5-3 広島県民文化センター5階)

講師: 廣瀬英雄 氏 (広島工業大学教授)

題目: 回路方程式, ポアソン方程式, 中心極限定理は最適なサンマの焼き方にいかに貢献できるか

概要: 「魚焼き網の上にサンマを乗せ電流を流してジュール熱でサンマを焼くときの最適な電流注入位置とサンマの置き方」を材料にして、電気工学、線形代数、確率論などを複合的にからませ、若者の科学/工学への興味を喚起する授業の取り組みについて述べる。一種のアクティブラーニングとも考えられる。

■ 第2回講演会

日時: 平成28年8月10日(水) 10:30 ~ 12:00

場所: 広島大学工学部 A1 棟 7階 A1-731 (東広島市鏡山 1-4-1)

講師: Prof. Yashwant K. Malaiya 氏 (The Computer Science Department at Colorado State University, Professor)

題目: Applying Software Reliability Concepts to Quantitative Software Security

概要: Potential breaches due to presence of unremedied vulnerabilities represent considerable risks, not only to commercial organizations but also to governments as well as individuals. Since vulnerabilities are specific types of software defects, we face a question - to what extent the concepts from software reliability are applicable to software security? We will examine some of the recent developments in quantitative modeling of security risks and will consider some of the problems that still need to be examined.

■ 第 3 回講演会

日時：平成 28 年 12 月 22 日（木） 16:30 ～ 17:30

会場：県立広島大学サテライトキャンパスひろしま 504 中講義室

（〒730-0051 広島市中区大手町 1 丁目 5-3 広島県民文化センター5 階）

講師：大橋 守 氏（徳島大学教授）

題目：信頼性システム解析について

概要：センサー技術の発達によりシステムの信頼性向上にはビッグデータの解析が必要となっている。システムの状態観測を行うと大量のデータが得られ、その解析結果から最適な信頼・保全政策がいろいろ考察されている。今までの確率・統計的な解析よりビッグデータ解析が主流になってきている。しかし、基本的な信頼性システムの解析は、いまだに十分に行われているとは言えない。マルコフ性を仮定できないとき、最も基本的な 2 ユニット並列システムについても十分にその特徴が分かっていない。この単純な 2 ユニット並列システムの信頼性システム解析の試みとして、積分方程式を用いた方法について話す。

■ 第 4 回講演会

日時：平成 29 年 2 月 10 日（金） 13:00-15:00

場所：広島大学総合科学部棟 C709（東広島市鏡山 1-7-1）

講師：栗田多喜夫 氏（広島大学大学院工学研究院教授）

講演題目：Convolutional Neural Network とその応用

講演概要：最近の人工認識のブームの火付け役のひとつであり、画像認識で高い認識性能を出している Convolutional Neural Network (CNN) の概要とその応用について紹介する。まず、CNN の研究の進展の概要を紹介し、現在、どのようなことが可能になってきているかについて紹介する。次に、CNN が本質的に何を学習しているのかを理解するために、データの背後の確率的な関係が完全に分かっている場合について、変分法を用いて CNN の学習に利用される目的関数から最適な非線形写像を導出する。最後に、我々の研究室で行っているニューラルネットの応用に関する研究について紹介する。

講師：向谷博明 氏（広島大学大学院工学研究院教授）

講演題目：動的ゲームと制御理論

講演概要：近年、確率システムにおける協調・フォーメーション制御に動的ゲーム理論は広く応用されており、様々な研究報告がなされている。現在に至るまで、協カゲームであるパレート戦略や、非協カゲームであるナッシュ均衡戦略、シュタッケルベルグゲーム戦略等が応用されてお

り、システム全体の利益促進に関して有用であることが分かってきた。しかしながら、実現には様々なハードルがあり、解決しなければならない課題が多く残されている。本セミナーでは、確率システムにおける動的ゲーム理論や、関連する最適化について解説を行う。また、実際の適用に関する問題点を明らかにする。

「ソフトウェアマネジメントと最適化」研究部会（平成 28 年度支部研究部会）

（主査：山田茂（鳥取大学），幹事：井上真二（鳥取大学），田村慶信（山口大学），南野友香（鳥取大学））

■ 第 1 回研究部会（プロジェクトマネジメント学会中国支部セミナー）

日時：2016 年 5 月 20 日（金）14:00～16:45

場所：岡山コンベンションセンター 401 会議室

（〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町 14 番 1 号）

主催：一般社団法人プロジェクトマネジメント学会中国支部

協賛：日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部

「ソフトウェアマネジメントと最適化」研究部会

【特別講演 1】

テーマ：医療現場、教育現場へのプロジェクトマネジメントメソッド活用の可能性

講師：宮原 勅治 氏 川崎医科大学 准教授

講演概要：医療現場で行われているチーム医療は、一人の患者を中心として医療スタッフがチームになって、入院から退院までの有期間に独自の治療を行うプロジェクトであり、学校は、一人の生徒・学生を中心として、入学から卒業までの期間に、選択された科目の担当教員によって構成されるチームが教育を行うプロジェクトとして捉えることができる。ここに、グローバルスタンダードのプロジェクトマネジメントメソッドを採り入れることにより、さらに効率的、効果的な治療や教育を行うことができないか。そのために重要なプロジェクトマネジメントのプロセスや技法は何か、備えるべき情報共有の基盤はどのようなものが求められるか、といった視点から、医療現場、教育現場へのプロジェクトマネジメントメソッド活用の可能性を述べる。

【特別講演 2】

テーマ：プロジェクトモニタリング（進捗・品質の実態把握）に関する検討

講師：安達 定昌 氏 株式会社 NTT データ 品質保証部部長

講演概要：プロジェクトが計画通りに問題なく進んでいるのか、仮に問題があったとしてもやるべきことがやってマネジメントして進んでいるか。これらの実態をタイムリーに効率よくPMやそのPMの所属する部門・経営者等が組織的に把握することが、プロジェクトを失敗させないためには、必須の条件になります。しかしながら、高難度な多忙な開発の現場PM及び複数の並行する難しいプロジェクト束ねる組織では実態把握不十分なために、アクションが遅れてしまい問題化するケースも少なからずあります。

■ 第2回研究部会（プロジェクトマネジメント学会中国支部セミナー）

日時：2016年11月22日（火）18:00～19:30

場所：サテライトキャンパス広島 504中講義室

（〒730-0051 広島県広島市中区大手町1丁目5-3）

主催：一般社団法人プロジェクトマネジメント学会中国支部

協賛：日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部

「ソフトウェアマネジメントと最適化」研究部会

テーマ：プロジェクトの落とし穴～なぜ同じようなトラブルが後を絶たないのか～

講師：福田幸雄 氏（オフィスマネジメントラボ代表）

講演概要：IT関連のプロジェクトでは、どの組織もトラブルの発生に困っています。大きなトラブルも少なからず発生しますが、トラブルとは言えないまでの綱渡り的なプロジェクトは後を絶ちません。なぜ同じようなトラブルがなくなるのでしょうか？私が経験を通して見るプロジェクトトラブルの本質的要因は

- ・責任者の決断する時期と内容
- ・担当者の問題認識と諫言力
- ・個人や組織の主観的見方への無知 等 意識の問題（これをここでは落とし穴という）

が大きいと考えています。今回は、これらの落とし穴を共有・意見交換してトラブルを少しでも減らす事を考えてみます。

■ 第3回研究部会

日時：平成29年1月20日（金）11:00～12:00（2件のご講演）

会場：鳥取大学工学部社会開発システム工学科棟 3F 情報ゼミナール室

（鳥取市湖山町南4-101）

講演1（11:00--11:30）

講演者：南野友香 氏（鳥取大学大学院工学研究科・助教）

講演題目：「ソフトウェア開発管理のための効用評価関数に基づく最適テスト労力量の推定」

講演概要：ソフトウェア開発プロセスにおける単体テストでは、信頼性評価のため、大量のテスト労力が費やされている。また、所定のテスト労力は、信頼性の観点からシステムを構成する各モジュールにすべて配分されているが、使用可能な予算やテスト労力量といった経営面の制約は考慮されていない。そこで本研究は、多属性効用関数を評価関数として導入し、複数の制約下における各モジュールの最適なテスト労力量の推定および配分を行う。

講演 2 (11:30-12:00)

講演者：佐藤孝司 氏 (NEC)

講演題目：「NECにおけるソフトウェア品質保証活動とメトリクスの効果分析について」

講演概要：弊社のソフトウェア開発事業における品質保証活動の実践例と、品質向上に効果的な定量的品質マネジメントの事例研究を紹介します。品質保証活動の実践例では、30年余の定量的品質マネジメントの仕組みを主軸に、近年のソフトウェア開発の事業環境の特徴であるOSSの活用、オフショア開発、アジャイル開発などにおける弊社の取り組み事例を紹介します。また、定量的品質マネジメントの事例研究では、プロセスやプロダクトのメトリクスと品質との相関について、製品開発の現場におけるデータの分析から得られた効果的なメトリクスについての研究を紹介します。

「SCM&サービス工学」研究部会 (平成 28 年度支部研究部会)

(主査：谷崎隆士 (近畿大学) , 幹事：堂本絵理 (広島経済大学) , 韓虎剛 (県立広島大学))

■ 第 1 回研究部会

日時：平成 28 年 8 月 27 日 (土) 16:20 ~ 17:20

会場：広島工業大学広島校舎 301 号室

(〒730-0811 広島市中区中島町 5-7)

主催 (共催) :

- ・日本経営システム学会 中国四国支部
- ・日本オペレーションズ・リサーチ学会 SCM&サービス工学研究部会

講師：加藤 浩介 氏 (広島工業大学教授)

題目：『研究紹介：加藤ゼミ』

概要：広島工業大学情報学部情報工学科加藤ゼミにおいて、近年、卒研究生が取り組んできた研究を紹介し、一部の研究 (配線検査経路最適化、人工学級シミュレーションなど) については詳しく説明する。

■ 第 2 回研究部会

日時：平成 28 年 12 月 10 日 (土) 14:10~17:25

会場：広島経済大学立町キャンパス 1 3 1 教室

(広島市中区立町 2 - 2 5 O R E 広島立町ビル)

主催 (共催)：

- ・日本経営システム学会 中国四国支部
- ・日本オペレーションズ・リサーチ学会 SCM&サービス工学研究部会
- ・日本経営システム学会 イノベーション指向データ分析研究会

プログラム：

14:10-14:15 開会挨拶

板倉 宏昭 (中国四国支部長, 香川大学大学院地域マネジメント研究科 教授)

14:15-15:45 講演 1

講師：藤井 信忠氏 (神戸大学大学院システム情報学研究科 准教授)

題目：システム技術によるサービス現場改善—外食産業を対象に—

15:55-17:25 講演 2

講師：廣瀬 英雄氏 (広島工業大学環境学部環境デザイン学科 教授)

題目：高相関の罫 --- MLRNNR によるオークション価格予測

「コンパクトシティを目指す地方都市のモデル分析」研究部会 (平成 28 年度支部研究部会)

(主査：福山敬 (鳥取大学), 幹事：谷本圭志 (鳥取大学), 小柳淳二 (鳥取大学))

■ 第 1 回研究部会

日時：平成 28 年 6 月 10 日 (金) 16:30~17:30

会場：鳥取大学工学部棟 4 階 第 4 1 講義室

(鳥取市湖山町南 4 - 1 0 1)

講演者：Prof. Kumaraswamy Ponnambalam 氏

(カナダ・ウォータールー大学システムデザイン工学科 教授)

講演題目：「Multidisciplinary Issues and Safety Analysis of Complex Systems」

講演概要：Traditional and contemporary methods for failure risk analysis generally consider only a few factors and as statistically independent events. Large hydro dams are complex systems but in the analysis of dam failure risk, the considered areas are hydrotechnical, geotechnical, structural, and seismic. However, modern large dam

failures have many other causing factors such as operational, monitoring, automation, climate change, value change, and grid impacts that have been mostly neglected and must be considered including any statistical dependence of those events in a new reliability and safety framework. Analyzing these risk factors requires new data to be collected, such as dam operation data, needing a comprehensive data architecture (measures, data collection, and open database). Exploring what factors need to be studied and what corresponding data need to be collected is itself a major new study and in this talk various motivations for such a study will be presented. A brief discourse on operations of reservoirs using modern stochastic optimization techniques will also be presented using an interactive website.

■ 第 2 回研究部会

日時：平成 29 年 2 月 8 日（水） 14:45~16:15

会場：鳥取大学工学部・都市計画ゼミナール室（3512 室）

（〒680-8552 鳥取市湖山町南 4 丁目 101）

【講演 1】

講演者：長曾我部まどか 氏（鳥取大学大学院工学研究科・助教）

講演題目：「ファシリテーション支援を目的とした討議テキストの分析」

講演概要：テキストマイニングは、ソーシャルメディアやアンケートの自由記述/回答のみではなく、会議議事録や発言録に対しても適用されている。本講演では、地域公共交通計画や防災計画に関するワークショップの討議テキストに対し、テキストマイニングを適用した事例を紹介し、テキストマイニングとファシリテーション支援について議論する。

【講演 2】

講演者：桑野将司 氏（鳥取大学大学院工学研究科・准教授）

講演題目：「経路検索サービスの検索履歴データ解析による交通特性の抽出」

講演概要：経路検索サービスにはログデータとして利用者が検索した出発地や目的地、指定時刻等が蓄積されている。本講演では、バス利用者の交通行動に関する基礎データが不足している鳥取市を対象に、経路検索システムに蓄積される利用者の起終点情報から交通特性を抽出するための方法論について紹介する。そして、講演参加者と地方都市における交通特性データの取得とその解析方法について議論する。

協賛研究会（1件）

■ The 9th Japan-Korea Software Management Symposium

（第9回日韓ソフトウェアマネジメントシンポジウム）

開催日：平成28年11月26日（土）

場所：鳥取大学 広報センター スペースC

（〒680-8552 鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101）

主催：韓国信頼性学会保全性研究グループ

鳥取大学品質指向ソフトウェアマネジメント研究グループ

世話役：山田茂（鳥取大学）

支部長表彰（6名）

氏名：馬場 偉士（山口大学 工学部 知能情報工学科）

卒業論文題目：オープンソースソフトウェアに対するディープラーニングに基づくフォールト識別法

推薦者：田村慶信（山口大学大学院 創成科学研究科）

氏名：稲葉広幸（鳥取大学工学部 社会開発システム工学科）

卒業論文題目：ソフトウェア信頼性評価のためのマルコフ型チェンジポイントモデルに関する研究

推薦者：山田茂（鳥取大学大学院工学研究科社会経営工学講座）

氏名：泉田和希（広島経済大学経済学部経営学科）

卒業論文題目：フレキシビリティ概念の拡張によるサプライヤー部品発注方式の強化—自動車産業における1次サプライヤーの取引システムを事例に—

推薦者：上野信行（広島経済大学）

氏名：富谷昌弘（近畿大学 工学部 情報学科）

卒業論文題目：労働集約型セルにおける混合整数計画法を用いたオペレーター総数の最小化問題

推薦者：片岡隆之（近畿大学 工学部 情報学科）

指名：花高美森（県立広島大学 経営情報学部 経営情報学科）

題目名：2路線サプライチェーンに対する線形関数を用いた在庫管理方針

推薦者：広谷大助（県立広島大学 経営情報学部 経営情報学科）

氏名：長谷川智治（広島大学大学院工学研究科博士課程前期）

修士論文題目：交渉ゲームにおける協調成立に関するシミュレーション分析

推薦者：林田智弘（広島大学大学院工学研究科）

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
平成28年度支部定例シンポジウム 会計報告

自 平成28年3月1日

至 平成28年12月5日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部シンポジウム費	55,000	55,000	
収入合計	55,000	55,000	
(支出の部)			
会議費 会場費	12,510	12,510	高松テルサ
茶菓子代	11,216	15,325	
講演会費	22,274	11,137	宇野氏, 源泉徴収 1,137円
表彰関係費	3,000	10,000	図書カード 5,000円x2
事務費 アルバイト代	6,000	6,000	1,500x2日x2名
支出合計	55,000	54,972	
残高	0	28	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
平成28年度支部研究部会「ソフトウェアマネジメントと最適化」 会計報告

自 平成28年3月1日

至 平成29年2月28日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部部会費	40,000	40,000	
収入合計	40,000	40,000	
(支出の部)			
講演会費	40,000	18,932	佐藤氏, 南野氏 9,466円 源泉徴収 966円
協賛費		20,000	プロジェクトマネジメント学会中国支部
支出合計	40,000	38,932	
残高	0	1,068	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部

平成28年度支部研究部会「SCM&サービス工学」 会計報告

自 平成28年3月1日

至 平成29年2月28日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部部会費	40,000	40,000	
収入合計	40,000	40,000	
(支出の部)			
会議費		4,000	広島工業大学
講演会費	40,000	33,411	加藤氏, 藤井氏, 廣瀬氏 11,137x3名 源泉徴収 1,137x3
支出合計	40,000	37,411	
残高	0	2,589	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
 平成28年度支部研究部会「コンパクトシティを目指す地方都市のモデル分析」 会計報告

自 平成28年3月1日

至 平成29年2月28日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部部会費	40,000	40,000	
収入合計	40,000	40,000	
(支出の部)			
講演会費	40,000	34,839	Ponnambalam 氏 12,565円 源泉徴収 2,565円 桑野氏, 長曾我部氏 11,137x2名 源泉徴収 1,137x2名
事務費 アルバイト代		5,000	
支出合計	40,000	39,839	
残高	0	161	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
平成28年度支部会計

自 平成28年3月1日
至 平成29年2月28日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部運営費①	279,520	279,520	
支部事業費②	0	0	
利息	0	1	
収入合計	279,520	279,521	
(支出の部)			
支部運営費			
会議費	10,000	0	
講演会費	48,000	57,113	廣瀬氏, Malaiya氏, 大橋氏, 栗田氏, 向谷氏
部会費	120,000	116,182	40,000x3部会
シンポジウム費	55,000	54,972	
表彰関係費	13,000	4,100	
協賛費	10,000	10,000	ソフトウェアマネジメントシンポジウム
事務費	20,000	22,235	講演会用備品 (レーザーポインタなど)
通信運搬費	3,520	216	振り込み手数料
小計③	279,520	264,818	
支部事業費			
小計④	0	0	
支出合計③+④	279,520	264,818	
支部運営費残高①-③+利息=⑤	0	14,703	
支部事業費残高②-④=⑥	0	0	
当期運営残高⑤+⑥	0	14,703	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
平成28年度支部会計

自 平成28年3月1日
至 平成29年2月28日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部運営費①	279,520	279,520	
支部事業費②	0	0	
利息	0	1	
収入合計	279,520	279,521	
(支出の部)			
支部運営費			
会議費	10,000	0	
講演会費	48,000	57,113	廣瀬氏, Malaiya氏, 大橋氏, 栗田氏, 向谷氏
部会費	120,000	116,182	40,000x3部会
シンポジウム費	55,000	54,972	
表彰関係費	13,000	4,100	
協賛費	10,000	10,000	ソフトウェアマネジメントシンポジウム
事務費	20,000	22,235	講演会用備品 (レーザーポインタなど)
通信運搬費	3,520	216	振り込み手数料
小計③	279,520	264,818	
支部事業費			
小計④	0	0	
支出合計③+④	279,520	264,818	
支部運営費残高①-③+利息=⑤	0	14,703	
支部事業費残高②-④=⑥	0	0	
当期運営残高⑤+⑥	0	14,703	

会計帳簿および領収書を監査した結果、適切に処理されていることを確認いたしました。

平成29年3月10日

署名

西山 新一郎



公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
平成28年度支部会計

自 平成28年3月1日
至 平成29年2月28日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部運営費①	279,520	279,520	
支部事業費②	0	0	
利息	0	1	
収入合計	279,520	279,521	
(支出の部)			
支部運営費			
会議費	10,000	0	
講演会費	48,000	57,113	廣瀬氏, Malaiya氏, 大橋氏, 栗田氏, 向谷氏
部会費	120,000	116,182	40,000x3部会
シンポジウム費	55,000	54,972	
表彰関係費	13,000	4,100	
協賛費	10,000	10,000	ソフトウェアマネジメントシンポジウム
事務費	20,000	22,235	講演会用備品 (レーザーポインタなど)
通信運搬費	3,520	216	振り込み手数料
小計③	279,520	264,818	
支部事業費			
小計④	0	0	
支出合計③+④	279,520	264,818	
支部運営費残高①-③+利息=⑤	0	14,703	
支部事業費残高②-④=⑥	0	0	
当期運営残高⑤+⑥	0	14,703	

会計帳簿および領収書を監査した結果、適切に処理されていることを確認いたしました。

平成 29 年 3 月 16 日

署名 福 山 敬



公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

中国・四国支部 平成 29 年度活動計画 (案)

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| 1. 総会 | 1 回 |
| 2. 運営委員会 | 2 回 |
| 3. 支部懇親会 | 2 回 |
| 4. 支部講演会 | 5 回 |
| 5. 中国・四国地区 SSOR | 1 回 |
| 6. 支部主催シンポジウム | 1 回 (山陰, 山陽, 四国地区による持ち回り) |

H29/11 : 開催場所 鳥取市 (鳥取大学工学部) 「社会に役立つ数理モデル」

【参考 : 直近 3 年分開催データ】

山陰地区担当 H26/11/22 : 実行委員長 山田茂 (鳥取大学)

山陽地区担当 H27/06/06 : 実行委員長 土肥正 (広島大学)

四国地区担当 H28/11/26-27 : 実行委員長 中山慎一 (徳島大学)

- | | |
|--------------------------------------|------|
| 7. 共催・協賛研究会等 | 3 回 |
| ● 日韓ソフトウェアマネジメントシンポジウム | |
| ● IEICE 信頼性(5月)研究会 | |
| ● 確率系 4 部会合同シンポジウム (10月7日予定) | |
| 8. 支部研究部会 | 3 部会 |
| ● 「プロジェクトマネジメントと品質経営」研究部会 (主査 : 山田茂) | |
| ● 「SCM&サービス工学」研究部会 (主査 : 谷崎隆士) | |
| ● 「OR と数学」研究部会 (主査 : 中山慎一) | |
| 9. 支部長表彰 | 若干名 |

平成29年度（公社）日本オペレーションズ・リサーチ学会
中国・四国支部 研究部会 趣意書

名称

「プロジェクトマネジメントと品質経営」研究部会

部会組織（主査，幹事等）

主査：山田 茂（鳥取大学大学院工学研究科・教授）

幹事：~~井上 真二（鳥取大学大学院工学研究科・助教）~~

~~田村 慶信（山口大学大学院理工学研究科・准教授）~~

南野 友香（鳥取大学大学院工学研究科・助教）

設立趣意

組織の能力を高めるためには、プロジェクトマネジメント手法を効果的に活用しながら品質経営を軸とした自組織のプロセスを改善していくことが重要となる。当研究部会では、主に、ソフトウェア開発組織に焦点をあて、品質管理やプロジェクトマネジメントなど、品質経営に基づいたソフトウェアマネジメント技術に関する研究分野、およびそれに関連するオペレーションズ・リサーチ手法に関する研究分野において第一線で活躍されている実務者や研究者をお迎えして、特に、実務的および理論的側面における問題を整理する共に、それらの有効かつ効果的な解決策について議論する。

対象分野

品質管理工学，品質指向プロジェクトマネジメント，確率・統計，最適化技術，トヨタ式問題解決手法

研究部会開催計画

主に鳥取大学において年2回以上の開催を予定している。

運営方法

- ・開催の案内は主に支部メーリングリスト等を通じて支部会員へ適宜告知する。
- ・鳥取県情報産業協会等の関連する地元組織へも周知しながら地元企業に対して研究部会への参加を促すと共に、会員の増強に向けた働きかけも行う。
- ・研究部会費の使用用途（予算）としては、4件の講演を予定し、講演謝金@10,000円×4の総額40,000円を予定している。

「平成 29 年度 中国・四国支部研究部会の募集」への応募—研究部会趣意書—

2017. 1. 26

近畿大学

工学部

谷崎

1. 名称：SCM&サービス工学研究部会

2. 部会組織

主査：近畿大学工学部情報学科 教授 谷崎隆士

幹事：徳島大学大学院理工学研究部 理工学部門 准教授 宇野剛史

3. 設立趣旨

従来の「ものづくり分野」「サプライチェーン分野」に加えて、「サービス分野」への生産性向上や振興が期待されている。

本研究部会は、サプライチェーンマネジメント、サービス工学における最新の研究を進めていく。理論研究発表、応用研究発表、事例発表などを含めて、OR を適用していくに際しての課題解決や実践的な方法論を討議し、行政、企業のニーズにこたえていくという姿勢で、本研究部会が理論と実用の橋渡しの役割を果たしたいと思う。 そのためにも、理論家のみならず、企業関係者やコンサルなどの実務家の参加を期待している。

以上の趣旨で、平成 15 年度からつづいている研究会を時代のニーズにあわせて変化させつつも、さらに継続・深化していきたいと考えている。オペレーションズ・リサーチ学会の他支部、他学会と連携を深め会員に最新の話題提供ができることを目指している。

4. 対象分野

【応用分野】

- ・サプライチェーンマネジメント、流通システムの設計・運営（ロジスティックス、マーケティングなど）
- ・サービス工学
- ・生産システムの設計・運用・管理（生産方式、スケジューリング、シミュレーション、MRP, ERP, JIT, APS, スケジューリング、シミュレーションなど）
- ・公共関連（輸送・交通、医療福祉介護システム、資源環境リサイクルシステム、その他）
- ・経営関連（経営戦略、企画、設計、金融財務、組織人事教育、その他）
- ・情報技術（情報化企画、ビジネスプロセスモデリング、e-ビジネス、セキュリティ、インターネットアプリケーションなど）
- ・その他 OR 関連

【理論分野】

- ・ 数理計画・最適化技術
- ・ シミュレーション・待ち行列理論
- ・ 確率・統計
- ・ 意思決定支援技術（多目的計画、AHP、ゲーム理論、その他）
- ・ ソフトコンピューティング（ニューロ、ファジィ推論、遺伝的アルゴリズム、進化的計算など）
- ・ その他 OR 関連

5. 研究部会開催計画

- ・ 年2回以上の開催を予定している。1回当たり講師2名の研究・講演を行う。
- ・ 講演謝金として、10千円/人×4人 = 40千円を申請致します。
- ・ 1名は学界から、もう1名は産業界から招聘することを原則にする。
学界、産業界、行政などから参加者を募ることとしたい。
- ・ OR学会本部、他支部や他の学会との主催、共催を図っていく。

6. 運営方法

- ・ 案内は、事前にOR学会会員、今までの参加者へメールリストで流す。
- ・ 関連の学会の支援を依頼し、案内を流してもらう。
- ・ 研究企画については、幹事が主に担うが、広く参加者からも逐次アイデアを受け、さらに充実したものとしていく。

以上

研究部会趣意書

名称

「ORと数学」研究部会

部会組織（主査，幹事等）

主査：中山慎一（徳島大学大学院 准教授）

幹事：宇野剛史（徳島大学大学院 准教授）

大橋 守（徳島大学大学院 教授）

竹内 博（四国大学 教授）

設立趣意

ORでは、数学を道具として用い、広範な現実の問題を取り組み、色々な分野における意思決定を行っている。その道具として利用して数学の世界では、まったく異なった分野で現れる事象のもとに横たわっている共通の法則性を発見することがある。逆に、ORの手法として開発された数学的技法が、単なる技法というだけでなく、新しい数学や数理科学の萌芽となる場合も存在する。

そこで、本研究部会では、OR、数学、数理科学の研究者などを迎え、ORと数学の最新研究を知ることにより、相互における新たな世界構築の可能性について議論する。

対象分野

確率・統計，解析学，幾何学，代数学，最適化理論，グラフ・ネットワーク，スケジューリング，アルゴリズム，計量理論，経済，意思決定論

研究部会開催計画

年2回以上の開催を予定している。

運営方法（予算含む）

開催の案内は主に支部メーリングリスト等を通じて支部会員へ告知する。

予算に関しては、講演謝金4件（10,000円 x 4）を予定している。

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
平成29年度予算

	予算額	備考
(収入の部)		
支部運営費①	279,520	H28実績
支部事業費②	98,411	「社会に役立つ数理モデル」
収入合計	377,931	
(支出の部)		
支部運営費		
会議費	10,000	
講演会費	60,000	約12,000x5 (謝金・旅費補助)
部会費	120,000	40,000x3部会
表彰関係費	13,000	
協賛費	20,000	10,000x2
事務費	10,000	
通信運搬費	6,520	
事業費	40,000	支部事業 20,000, SSOR 10,000, 確率系 4部会合同シンポジウム 10,000
小計③	279,520	
支部事業費		
講演謝金	33,411	3名
講師旅費	40,000	2名
旅費補助	25,000	学生旅費支援
小計④	98,411	
支出合計③+④	377,931	
支部運営費残高①-③=⑤	0	
支部事業費残高②-④=⑥	0	
当期運営残高⑤+⑥	0	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
中国・四国支部 平成29年度支部役員（案）

（五十音順，敬称略）

役職	氏名	所属	新・再・留任	備考
支部長（1名）	土肥 正	広島大学	（留）	
副支部長 （2名）	高濱 節子	広島修道大学	（新）	
	福澄 博道	中国電力	（留）	
運営委員 （12名）	小野 孝男	岡山県立大学	（再）	
	梶川 祐朗	(株)エネルギー・コミュニケーションズ	（再）	
	加藤 浩介	広島工業大学	（再）	研究普及委員
	川勝 英史	尾道市立大学	（留）	
	小柳 淳二	鳥取大学	（留）	
	島田 文彦	広島国際大学	（留）	
	滝本 恭司	中国電力	（留）	
	谷崎 隆士	近畿大学	（新）	
	堂本 絵理	広島経済大学	（再）	
	広谷 大助	県立広島大学	（新）	
	中山 慎一	徳島大学	（留）	
	水谷 昌義	安田女子大学	（留）	
監事 （2名）	西崎 一郎	広島大学	（再）	
	福山 敬	鳥取大学	（留）	
幹事 （5名）	宇野 剛史	徳島大学	（留）	研究普及委員
	岡村 寛之	広島大学	（留）	事務局
	片岡 隆之	近畿大学	（新）	
	齋藤 靖洋	海上保安大学校	（留）	事務局
	南野 友香	鳥取大学	（留）	
顧問 （5名）	大橋 守	徳島大学		
	海生 直人	広島修道大学		
	河合 一	鳥取大学		
	廣瀬 英雄	広島工業大学		
	山田 茂	鳥取大学		

60周年記念事業・若手会員交流支援事業計画書

1. 事業名 中国・四国地区 SSOR

実施支部 主 中国・四国 副 該当なし

実施時期 2017年9月7・8日

実施場所 広島エアポートホテル & Forest Hills Garden

参加予定人数 52名(内、補助対象者*:30名) *30歳未満または学生(非会員、30歳以上の学生を含む)

参加人数見積りの根拠となる過去の開催実績等がある場合は、それらの情報を記載してください。

中国・四国地区は地理的に広範であるため、遠方からの参加者全員に交通費を支給することは難しく、宿泊費(一泊朝食・夕食込み)相当額の補助金支給を予定している。30名の補助対象者募集に対して、中国・四国地区からの参加者の中でも特にOR学会学生会員や博士課程学生を優先的に採用するが、参加者の地理的なバランスも十分考慮した上で選定する。他支部からの参加者に対しても枠内であれば補助金を支給することを検討する。一般参加者20名の算出根拠は支部運営委員数26名から見積もっており、補助対象者30名の算出根拠は地元の広島大学から15名程度の参加者が見込まれるだけでなく、鳥取大学、徳島大学、山口大学、近畿大学、広島工業大学からも多くの学生参加者が見込まれることによる。

2. イベント内容の概要(当日のスケジュール(案)の他、特筆すべき点があれば記載してください。)

日時: 2017年9月7日(木)～8日(金) (一泊二日)

場所: 広島エアポートホテル & Forest Hills Garden (広島県三原市本郷町上北方 1361)

イベント概要: 講演会場は広島エアポートホテルから徒歩数分の森林公園内にある会議室となる(ホテルの会議室借料の約1/3で済むため)。9月7日は13:00開始とし、招待講演(2時間)と研究発表24件を予定している。ホテルでの夕食後(19:00～)、Forest Hills Garden内の宿泊コテージにおいて参加者全員による情報交換・交流会を計画しており、若手研究者・学生とシニア研究者・実務家の研究交流を実施する。翌9月8日は招待講演(2時間)と研究発表6件を予定し、12:00には閉会とする。招待講演者は未定であるが、研究分野のバランスを考慮して人選する予定である(現在のところ東京在住者を想定)。資料費などの印刷費用を大幅に削減するために、参加者が講演資料を予めダウンロードして持参出来るように配慮する予定であり、メールでの連絡を徹底することで通信費も削減する。また、イベントの運営は中国・四国支部運営委員から構成される実行委員会と地元学生のボランティアによって行い、アルバイト料は計上しない。

3. 予算案 総額 800,444円

収入内訳(合計額が予算総額と一致するようにしてください。)

60周年記念事業補助金	
宿泊費・交通費補助	300,000円 (30名×10,000円)
講師費用補助	140,444円 (2名×70,222円 [内訳: 講師謝金22,222円 + 講師宿泊費10,000円 + 講師旅費(東京往復)38,000円])
参加費	
一般	300,000円 (20名×15,000円)
学生	60,000円 (30名×2,000円)
その他	(注)30名の枠から漏れた学生の参加費は12,000円とする

支出内訳(合計額が予算総額と一致するようにしてください。)

ホテル宿泊費(朝食・夕食含)	520,000円 (52名×10,000円)
会場費	45,400円 (14時間)
講師支払(講師謝金、交通費)	120,444円 (2名×70,222円 [内訳: 講師謝金22,222円 + 講師旅費(東京往復)38,000円])
情報交換・交流会費用	114,600円 (52名×約2,000円)

4. 備考(連絡事項等があれば記載してください。)

広島空港に隣接する民間施設の「格安合宿バック」を利用するため、空港を利用する場合は大変便利である(2日とも昼食は、各自空港でとるものとする)。また、近隣県からの参加者にとっては自家用車での移動が便利であり、山陽自動車道の本郷IC及び河内ICから数分程度の距離である。公共交通機関を利用する場合は、JR広島駅、JR福山駅、広島バスセンターから空港リムジンバス、もしくはJR白市駅、JR三原駅から路線バスが利用可能である。情報交換・交流会の経費は、主に軽食・茶菓子・飲料の購入費用に充てられる。

2017 年度 支部事業(支部主催シンポジウム)計画書

1. シンポジウム名 社会に役立つ数理モデル開催支部 主 中国・四国支部 副 _____開催時期 2017 年 11 月開催場所 鳥取市(鳥取大学工学部)参加予定人数 60 名(正会員・賛助会員: 10 名, 学生: 40 名, その他: 10 名)

目的・内容

(参加人数見積りの根拠となる過去の開催実績等がある場合は、それらの情報も記載してください。)

中国・四国支部では、過去において、「OR 学会中国・四国支部国際サマーセミナー2014」(2014 年度支部事業)および「2015 年広島国際サマーセミナー(ISS 2015)」(2015 年度支部事業)を通じて、OR 技術を応用して優れた研究成果を挙げた著名な研究者を招聘し、最先端の理論や国際水準の事例研究成果に触れる機会を設けることで、研究活動の活性化を行ってきた。その一方で、当支部では OR に関する教育と普及を目的とし、支部長表彰(学生表彰)制度を創設し、「九州・中国・四国地区における若手 OR 研究交流会」(2013 年度九州, 中国・四国支部合同事業)、平成 28 年度中国・四国支部定例シンポジウム(若手研究者合宿形式の研究会)などの企画を通じて、学生会員の増強や若手研究者の交流活動にも積極的に取り組んできた。今後さらなる支部会員増強のためには、必ずしも OR がバックグラウンドではない実務者や研究者、並びに学生に対して、適用事例を通して OR 手法の魅力を知り、社会に役立つ OR を実感してもらう機会を作ることが肝要である。2017 年度支部定例シンポジウムでは、サービス工学、ソフトウェアマネジメント、都市/地域経済モデルなどを主なテーマとして活動してきたこれまでの支部研究部会における活動実績を総括し、上記分野における基礎理論や事例研究成果を整理することで、我々の社会生活において役立つ数理モデルの啓蒙に焦点をあてる。具体的には、OR 手法を効果的に活用した適用事例を紹介しながら、シンポジウム参加者が OR 手法に対する興味を喚起するようなセミナー形式のシンポジウムを企画する。中国・四国支部は中四国 9 県という広範囲な地域を所轄しており、これまでに開催された研究部会への参加者の地域分布を精査すると、参加者人数は開催場所によってかなりのばらつきがあった。また、当支部における支部研究活動に関する取り組みを、定例シンポジウムの場で一堂に会して紹介/議論する機会はこれまでになかった。よって、今後の支部組織を支える学生会員の増強や学生会員が引き続き正会員として支部活動に参加できるような状況を作り出すためには、OR をバックグラウンドとしない学生や若手研究者が気軽に参加できる催しを企画する必要がある。本定例シンポジウムの新規性はこの点にあると考えている。尚、中国・四国地域で遠方から参加を希望する一部の学生会員については、旅費の一部を支援する予定である。

2. 予算案 総額 98,411 円

収入内訳 (合計額が予算総額と一致するようにしてください。)

支部事業費(今回申請額)	98,411 円 (上限 100,000 円)
その他	
支部運営費	0 円
参加費	0 円

支出内訳(支部事業費分) (合計額が収入内訳の支部事業費(今回申請額)と一致するようにしてください。)

講師謝金	33,411 円(@11,137 円*3 名)
講師交通費・宿泊費	65,000 円(@20,000 円*2 名, 5,000 円*5 名(学生旅費支援))
会場費	0 円

3. 備考 (連絡事項等があれば記載してください。)

講師への謝金や旅費に加えて、学生参加のための旅費補助を特にお願したいと考えている。中国・四国地域は全支部の中で地理的に最も広範囲な領域をカバーしているため、四国4県と鳥取以外の中国4県からの参加となれば相当額の交通費が必要となり、研究発表以外の目的で学生が気軽に参加できる状況ではない。したがって、遠方から参加する 5 名程度の学生会員に対して、交通費の一部を補助することで、意欲ある学生にシンポジウムへの参加を呼びかけたいと考えている。